

まるっこ Marukko

Free

13

2021. 夏号

Maruko Central Hospital Public Relations Magazine



feature articles
特集
田む

【丸子中央病院の理念】 本院は、質の高い医療の提供を通じて地域のしあわせ創りに貢献します。

丸子中央病院 栄養科長 管理栄養士

平田 晴美

「きっかけ」

新型コロナウイルス蔓延での外出自粛で時間ができたことをきっかけに、家の片づけをはじめました。計画性はなく、その日の気分次第で場所を決めていましたので、予想外に時間がかかり丸一日を費やしてしまったりもありましたが、片付いてくると達成感がわき、次々に片付ける場所を探しては休日を通すようになっていきました。

普段からビールを愛飲していた私ですが、片付けで出てきたハイプティーや黒豆茶を代わりに飲んでみると想像以上においしく、ビールの代わりを十分果たしてくれました。また、片付けてみると普段から使っているものは案外少なく、不要な物の多い事に改めて驚き、そして反省。外出自粛で家にいる時間が増えたことがきっかけとなり、家の中が片付き気持ちよく暮らせるようになり休肝日まで手に入れたのです。



さて、私たち栄養士は、日頃患者さんとの栄養相談で食事改善のアドバイスをさせてもらっています。食嗜好だけでなく、仕事や家庭の事情が合わさった食の問題を抱えている方も多くいらっしゃいますので、改善には苦慮しますし継続していくのも大変です。そんな方々が私たち栄養士と話をすることで食生活の改善につながり、今後の生活がより良いものに転じていく「きっかけ」となっていたらいいように日々精進していきたく思います。



イラスト/森田 宏子

Contents

特集 田む

二百年のときと

百キロの距離を超え

存在する古民家

連載 番外編

丸子電鉄から読み解くー丸子の歴史 番外編

写真で振り返る別所線の崩落から開通

トピックス

Marukko TOPICS

二百年のときと
百キロの距離を超え
存在する古民家



柱には梁などの曲がった木材も使われている。屋根に大雪が積もった時のクッションの役割があった。



じねんや糸川の高い木造の建物は、糸川博士が上越高田より移築した、築200年を超える古民家です。この家がなぜ丸子にあるのか、じねんや糸川の運営に協力されている小山直孝様、久美子様、三原静子様にお話を伺いました。



糸

川先生は「波動工学」を研究されており、それがロケット開発に結び付いたのですが、

波動は音響にも大きな影響を与えます。そこで、信州国際音楽村の建設にあたって、糸川博士のアドバイスを受けたらどうか、という案が浮上しました。著名な糸川先生にこの話を受けていただけるかが大きな問題でしたが、先生は大変興味をお持ちになり、今の信州国際音楽村ホールなどに結実しました。しかし、それが縁で丸子が糸川先生の終の棲家になるとは、話を受けた当時は糸川先生も思っていられなかったでしょう。



入り口にはペンシルロケットの大きなレプリカが置かれています。

糸川先生は環境工学的な視点からも、丸子の地が大変気に入ったようです。特に音楽村や「じねんや」のある場所は、谷と谷の間の小高い山の頂上であり、風が吹き抜ける場所です。ここに、大好きな古民家を移築したいと考えられたのは、今この環境を見ると当然のようにも思われます。

工夫があつたと思われるのですが、吹き抜けで夏は涼しいのですが、冬はとても寒い。このため、糸川先生は横に別宅を建てて、冬はそちらで生活されていきました。



先生が古民家に興味をお持ちだったのは「自然を大切にしたい」という思いからで、先見の明があつたと改めて思われます。いま、こういった家は長野県には栄村に数戸あるのみようです。その貴重な古民家がこの丸子にあることは誇らしく思います。

この古民家の特徴は、とにかく「高い」ことです、玄関に入るとそこが吹き抜けとなつていますが、10mほど見上げる高さになり壮観です。雪深い高田にあった古民家ですので、屋根の高さは雪を自然に落とす



左から小山直孝様、久美子様、三原静子様

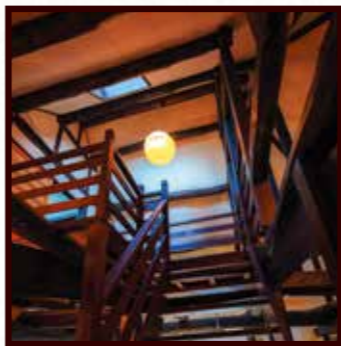


【つながり】



日本の宇宙開発の先駆けとなったペンシルロケットの父・糸川先生は東京大学を退官後、公演活動を通して上田市内の小・中学校に度々足を運んでいました。その後、先に述べた通り1991年に丸子へ移住し、地域のひとと一緒に「アースクラブ」という会を立ち上げます。勉強会を開いたり、鬼太鼓座(創作和太鼓集団)の練習を行ったり、宴会を開いたり、人を集めるのが好きな糸川先生らしく幅広く活動していました。東京や名古屋、大阪から来る方もいて、あの「小惑星探査機はやぶさ／はやぶさ2」的川泰宣先生、吉川真先生も参加されたことがあるそうです。アースクラブのメンバーで、じねんや糸川をオープンした三原静子さんは「ただただ好きなんですよ、糸川先生とこの家が」と笑顔で言います。1999年

に糸川先生が亡くなったのち、生誕100周年の2012年にアースクラブのメンバーで住宅を改装、喫茶店「じねんや糸川」をオープンします。店名は自然を愛し、大切にしていた糸川先生の思いを継ぎ「じねんや(自然家)」と名付けました。



高田にてこの家に住んでいらした上瀧令子様にメールで取材を申込んだところ、この古民家のことについて返信をいただくことができました。その内容を一部改編し、ここに掲載させていただきます。

家

の歴史ですが、もともと(これを建てた江戸時代は)

集落の共用の建物の鍵を預かる立場にあったようです。この家があった跡地のそばで現在も兄夫婦が新築で家を建てて暮らしています。跡地には先祖代々の墓があり、義姉が花や果樹を植えてくれています。米農家だったのですが、冬は雪が多く屋外保管では家に運ぶのが困難です。そこで2階は脱穀後のわらを保管し、その上の天井裏は冬用の薪(たきぎ)を収納していました。囲炉裏の熱で薪が乾燥するそうです。天井が高く、戸も開け放てるので夏は涼しいのですが、反対に冬は広い部屋に暖を取るのが大変でした。その時はその生活が

普通と違って生活をしていましたが、今から思えば、知恵の詰まった家だったと思います。床下は野菜の貯蔵、二階はわたらの貯蔵で防寒、天井裏は冬のための薪置き場として使われていました。囲炉裏は煮炊き、暖を取る、萱の屋根を温め融雪効果、煙による殺菌・防虫効果など、さまざまな効用がありました。昔ながらの大きな家を維持するのは大変で古い家は解体されるかと思いましたが、縁あって移築されると聞いて、嬉しかったことを覚えています。

代わり、この大きな家や家族を守ってきた母に感謝があり、妹は、大晦日の夜に大雪が降り降りし、ランプの下家族で年越しをしたことを思い出したそうです。糸川博士の別荘に、母も生前に訪問して、感慨深いと言っていました。私たち夫婦も何回か訪問させて頂きました。2006年には、兄・妹夫婦と私たち計6名で伺い、中を見せていただきました。柱のキズ等懐かしく思い出話に花が咲きました。そんな思い出が詰まった生家が今も残っていること、そして丸子の人に大切にされていることが嬉しく、感謝です。また、今回取り上げていただき、亡き父母も喜んでいてと思います。ありがとうございます。



じねんや糸川

住所/上田市生田茂沢75-9
電話/080-8117-6400
営業時間/13:00~16:00
定休日/月・火・水曜日
(新型コロナウイルスの影響で) 短縮営業中

新型コロナウイルスワクチン 一般向けの接種を開始

2021年5月より65歳以上の新型コロナウイルスワクチンの集団接種を開始しました。ワクチン接種に向けてのシミュレーションも実施し、地域のみなさんが安心してワクチン接種を受けられる体制を整えてきました。新型コロナウイルスとの闘いはまだ続きますが、今後も医療を通じた地域貢献を行って参ります。



オンラインZoom 「ママの輪2021」の開催中

理学療法士が産後の体をケアする「ママの輪」の参加者を募集しています。産後に向き合うお母さんを応援します。ご自宅から参加可。テーマは、腰痛予防、尿トラブル、くびれエクササイズなど。参加費無料でQRコード、URLよりアクセスしお申込みください。



上田市男女共同参画表彰を 受賞

2021年2月、上田市男女共同参画表彰を受賞しました。当院は、企業主導型保育園の開設、病児保育センターの設置、職場復帰後の研修プログラムを構築してきました。今後も地域のみなさん、そして働く職員が仕事と子育て両立できる職場環境づくりに取り組んで参ります。



山田康司シェフのお弁当 ツルヤ全店舗で販売開始

長野県で幅広く店舗展開するスーパーマーケット「ツルヤ」で山田シェフ考案のお弁当が販売されました。長野県の実施する健康づくり運動「信州ACEプロジェクト」の活動の1つ信州ACE弁当の基準に基づき作られています。塩分や野菜の量に配慮したお弁当です。是非、お試しください。



丸子中央病院の
SNSフォローをお願いします!



- 発行
特定医療法人 丸山会 丸子中央病院
経営企画課 広報係 Marukko(まるっこ)制作委員会
〒386-0405 長野県上田市中丸子1771-1
- 編集・進行
北澤 淳一(丸子中央病院)
安藤 あすか(丸子中央病院)
春日 真翔(丸子中央病院)
- アートディレクター
五木田 忠之(MOKUBA.CO.,LTD.)
- デザイン
MOKUBA.CO.,LTD.
- お問い合わせは…
丸子中央病院 経営企画課 広報係
Marukko(まるっこ)制作委員会まで
TEL.0268-42-1111
月曜日から金曜日、10時~17時(祝日・休日・年末年始を除く)



丸子地域に糸川さんが残してくれたものをこれからも誇りに。

糸川さんの著書を読んでいると、生涯研究心にあふれていた様子が伺えます。ロケット開発に、ヴァイオリン作り、素人には全くつながらないように見えますが、航空機研究で培った技術がいかされています。62歳で始めたバレエは、デビューするまで極め、生き甲斐探しのプロでした。日本の未来に憂慮していたという糸川さんですが、現代を見たら何を思うのでしょうか。(安藤あすか)

編集後記



写真で振り返る
別所線の
崩落から
開通

上田丸子電鉄の歴史について
連載している本欄ですが、今回も番外篇。
赤い鉄橋の崩落から開通までの
変遷を写真で振り返ります。

番外編



2019年10月13日
台風19号の影響により上田電鉄別所線の鉄橋が一部崩落



2019年11月23日



2020年1月13日



2020年2月16日



2020年4月11日